

第2回 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

日時：令和7年8月20日(水)午前9時30分～午前11時30分

会場：市役所西庁舎12階 西12D会議室

1 出席者

【委員】(五十音順・敬称略)

所属・役職等	氏名
中京大学スポーツ科学部 准教授	倉持 梨恵子
日本福祉大学 大学院スポーツ科学研究科 健康科学部リハビリテーション学科 教授	小林 寛和
中部大学生命健康科学研究科 保健医療学専攻 准教授	松村 亜矢子
名古屋市立大学整形外科 主任教授	村上 英樹
名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学寄附講座 准教授	吉田 雅人

【行政関係者】

所属・役職等		氏名
スポーツ市民局	スポーツ推進部 部長	石原 治
	スポーツ推進部 担当課長	杓名 大介
	スポーツ推進部スポーツ振興課 課長補佐	増田 大樹

2 会議次第

- 1 開会
- 2 参考資料
 - (1) 第1回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要
 - (2) 令和7年度 第2回 ネット・モニターアンケート結果(概要)
 - (3) 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み
- 3 議題
 - (1) スポーツ医・科学施設の主な機能について
 - (2) メディカル機能の望ましいあり方について
 - (3) スポーツ医・科学拠点となる施設の必要性について
 - (4) スポーツ医・科学施設の候補地の考え方について
- 4 閉会

3 議事概要

参考資料

参考 1 第 1 回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

○特になし

参考 2 令和 7 年度 第 2 回 ネット・モニターアンケート結果(概要)

○「運動・スポーツ」とあるが、この表現は今後も使うのか。

○スポーツ実施率の向上を考えると、運動・スポーツをしていないと 回答した 30.5%の方が、いわゆる無関心期にあたるのか、準備期に入っているのか、もし分析ができれば 30 代、40 代にどう働きかけるかについても見えるのではないかな。

参考 3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

○特になし

議題

(1) スポーツ医・科学施設の主な機能について

○メディカルチェックについて、症状がない人に対しては保険診療にならないと思うので、パッケージの内容や料金設定が課題。何が改善したかの効果分かるように、何度か継続して受けていただける設定を考える必要がある。

○「安全・健康で継続的・効果的なスポーツの実施」と「競技力の向上」で分けることは難しいのではないかな。メディカルチェックは競技力の向上でも必要であるし、栄養や心理も健康増進で必要になるため、同一の取り組みを深度で分けるような観点が必要かなと思う。

○全体でコース別というイメージで考えるとよいのでは。

○女性サポートの項目も入れていただきたい。サポートを考えるうえで、婦人科の要素は必要になる。

○高齢者が多く、要介護状態になる一番の要因が認知症なので、認知症などのチェックもできれば。

○測定員やトレーナーといった専門人材の詳細は、また次回に向けて具体的な資格を整理していくということによいか。

(2) メディカル機能の望ましいあり方について

○手術、入院までの対応は現状だと非現実的だが、全くやらないとなれば独自性も出しにくく、ある程度の医療機能を持って進めていくのが望ましい。

○個人的には、他でやっていない特徴的な保険外診療も取り入れることができれば、より特徴のある施設となるのではないかな。

○自由診療はなかなか大学病院ではできないので、例えばスポーツ愛好家の高齢者の方に再生医療を提供したりすることが出来ればと思う。

- 競技によって怪我の仕方や病気も変わってくるので、どこまで対応ができるかとは思う。
- 医療機能は確実に必要。中心は整形外科や内科になると思うが、婦人科や心療内科、脳神経外科、歯科などスポーツに関係する診療科は多い。少なくとも、不調を訴えた方を入口できちんと診断して、振り分ける機能は必須だと思う。
- 表について、身体活動強度のレベルを縦軸にして、右肩上がりのグラフとした方が分かりやすいのではないか。
- フィジカルチェックを経たうえで、トレーニング指導、エクササイズ指導、コンディショニング・リコンディショニングに進んでいくため、フィジカル・フィットネスチェックの下側にそういった内容を入れられるとよい。
- リハビリテーションにおけるメディカル／アスレチックの区別はなかなか難しく、メディカルチェックについても医療行為でないものもあると思うので、内容の説明をまた別途記載してもらえるとよい。

(3) スポーツ医・科学拠点となる施設の必要性について

- 既存のスポーツ施設にとってスポーツ医科学の拠点のような位置づけとして、スポーツセンターの活性化にも繋がればと思う。名古屋市はなかなか充実した施設配置になっていると思うが、他の政令市のスポーツセンター等の配置状況が分かればまた教えてほしい。
- 運動プログラムを提案しても継続しない現状もあり、各区のスポーツ施設と連携して、住まいに近い施設で継続する循環ができれば一番よい。
- 次回に向けて、市のスポーツ施設にどのような人員が配置されていて、どのようなプログラムが実践されているかがわかると議論しやすいのではないか。

(4) スポーツ医・科学施設の候補地の考え方について

- 各区のスポーツセンターと連携するのであれば、市の中心部が望ましいのではないか。
- 愛知県にはプロスポーツチームや社会人チームも多く、自動車でのアクセスも見込んで駐車スペースも一定必要になる。
- 医療を行うという方向性があるのであれば、核となる医療機関に近く、連携が取りやすいというのは重要な要素になるのではないか。
- アスリートはとにかく短い期間で復帰したいので、他の医療機関との連携は大事になってくる。

その他

- 「スポーツ医・科学」という表現に違和感がある。「スポーツ医科学」という単語で成立するので、区切る必要はないのでは。
- スポーツによる身体の不調を感じた際に、一般の方が最初にどの機関を選択し

ているのかがわかるとよい。接骨院や鍼灸院が多いのか、医療機関に受診する
ならどんな条件なら受診しやすいか。

○病院を受診するというのは敷居が高い面もあり、受診せずに適切な治療ができ
ないこともあるので、受診しやすいことは重要。

○劇団やダンス、サーカスなどもスポーツ選手のようなトレーニングをして身体
を痛めることがあり、スポーツではないかもしれないが、スポーツに近いこと
をしている方々も来られる施設になればと思う。